新潟大学　人を対象とする研究等倫理審査委員会　オプトアウト書式

<table>
<tr><td>①研究課題名</td><td>人工股関節全置換前後での膝回旋角の変化</td></tr>
<tr><td colspan="2">②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者</td></tr>
<tr><td colspan="2">【対象】
新潟大学医歯学総合病院にて2012年1月から2021年12月の間に施行された、片側例に対する人工股関節全置換術例（約200関節）
【研究期間】
新潟大学倫理審査委員会承認後から2025年3月31日まで
【過去の研究課題名】なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">③概要</td></tr>
<tr><td colspan="2">人工股関節全置換術後に膝周囲に疼痛が生じる場合があり、その一因として膝蓋骨傾斜が増加することや膝自体の回旋が変化するためと推測されています。私たちは、膝回旋角に影響を与え得て、医療者が介入し得る因子として、脚延長量に着目しました。脚延長量と膝回旋角の関連が分かれば（例えば過度の脚延長により膝回旋角が大きくなりやすいなど）脚延長量の基準（上限）を定めることが可能になると考えられました。
本研究の目的は人工股関節全置換術前後の膝回旋角の変化と脚延長量の関連を調査することです。</td></tr>
<tr><td>④申請番号</td><td>2022-0144</td></tr>
<tr><td>⑤研究の目的・意義</td><td>人工股関節全置換術後に膝周囲に疼痛が生じる場合があり、これは脚延長により膝蓋骨傾斜の増加や人工股関節全置換術後に脛骨に対して大腿骨が外旋するという報告もありますが、脚延長量との関連は不明です。
本研究の目的は人工股関節全置換前後での膝回旋角の変化と脚延長量の関連を調査することです。</td></tr>
<tr><td>⑥研究期間</td><td>新潟大学倫理審査委員会承認後から2025年3月31日まで</td></tr>
<tr><td>⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）</td><td>研究に用いるCT画像は通常の診療でインプラント設置位置を確認するためにこれまでも行ってきたものであり、本研究に特殊な一般診療から逸脱したものではありません。また、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。利用は当院のみで行います。取得する情報については、氏名や診療番号を削除して研究用IDを付与して対応表を作成し、対応表と照合しない限り特定の個人を識別することができない情報として扱います。
研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。</td></tr>
</table>

⑧利用または提供する情報の項目	新潟大学医歯学総合病院にて 2012 年 1 月から 2021 年 12 月の間に片側変形性股関節症に対して施行された人工股関節全置換術例
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科　健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科　健康寿命延伸・運動器疾患医学講座　今井　教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科　健康寿命延伸・運動器疾患医学講座　今井　教雄　025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp